

「自分をより深く見つけ直せた就活」

理工学部 電気電子生命学科
アステラス製薬株式会社内定

私はアステラス製薬株式会社のMR職の内定を頂きました。MR職というのは製薬会社の営業職のことで、ご存知の方はきつい仕事というイメージがあるかもしれません。なぜその就職先を選んだかに始まり、内定獲得への自分なりのアドバイスを残したいと思います。

まず私は曾祖母が108歳の超長寿だったことから生命に人一倍興味があり、大学入試の時点で、大学院に行き医療機器の研究者になろうと考えて電気電子生命学科を選びました。3年生の11月から始めた就職活動も、当初は2年後にどんな会社を目指すかを考えるためでした。

そして、初めて行ったビッグサイトで製薬会社のMR職という職業に出会いました。それと同時に、一口に医療関係の仕事といっても他に医療機器メーカーや、電機メーカー、化学メーカーなど自分の知らなかった多くの仕事があることを知りました。

大学受験時の決意は固かったものの、今後40年近くも続けていくかもしれない仕事を、一時の狭い知識で決定するのは危険なのではないかと考えるようになり、もっと自分で情報をできる限り集め、進路決定をしようとするようになりました。

そうして自分を見つめなおしていくうちに、研究者として多くの人を救うのも医療を通じた社会貢献だし、医療に携わる業界の社員として働くことも社会貢献なのだと考えるようになりました。また、私は小学校2年からずっと野球をしてきて、大学の野球サークルでも代表者をしてきたこともあり、周囲の人を巻き込んで何かを成し遂げるということにも強い関心があることに気付きました。

そして自分の知的好奇心を生かしながら広く社会貢献できる仕事として製薬業界のMRを志望するようになりました。さらに、入社時はMRでも、努力次第でいずれは学術担当やマーケティング etc...といったような、幅広いフィールドで活躍するチャンスがあることにも魅力を感じました。

ひとたび志望動機が固まればあとは万全の準備をして選考に臨んでいく中で自然と内定に辿り着くことができました。

私が内定のために効果的だったと思うのは以下の2点です。

1. 面接やグループディスカッションの度に目標設定と反省を行う
2. 日経新聞を読む

1. については基本的なことかもしれませんが、毎回目標を立て、それがど

れくらい達成できたのかを振り返り、面接官と話しているうちにたまたま言えたいいフレーズなど、気づいたことを忘れる前に書き留めておけば選考を受けることに確実に進化することができます。

2. については、個々の企業研究に加えて社会の流れや産業界全体の流れ掴めるという意味でかなり有効だと思います。

私の場合、面接官に「なぜ医療機器業界ではなく医薬品業界を選んだのですか？」と聞かれた場合に、新聞で読んだ「日本の CT や MRI などの医療機器の普及数は欧米に比べても 10 万人あたりで 3 倍以上にもなる」という事実から、より市場の成長性が見込める医薬品業界で自分も成長したいと答えたところ、良い評価をしていただけました。これは 1 例に過ぎませんが自分の考えていることの根拠に数字を盛り込んだり、幅広い視野からのアプローチが可能になったりと、説得力を増すことができます。

○MR を目指す人へのアドバイス

- ・企業によっては SPI が 1 割しか通過できないため、テストセンターをはじめ自分なりに最大限点が取れるまで何度も解きなおし、志望企業と同じ問題形式の他企業を数社受けて慣れることをおすすめします。
- ・グループディスカッションが関門となる企業も数多くあるため（1 テーブルから通過するのは 1 人など）、これも数をこなしながら自分が得意だと思える役割（司会、話がそれた時の軌道修正、意見をまとめる etc...）を徹底して果たせるようになることが必要です。
- ・面接では志望動機、がんばったこと、他者ではなくてなぜこの会社かといった一般的な質問にしっかりと答えられれば、後は運と相性次第です。

最後に、就活はもしかすると人生の大きく左右してしまうかも知れないものなので、何か「絶対に譲れない軸」を持ってやりきってほしいと思います。

私の場合は生命への興味に加えて、少年時代から野球をする中で感謝の心と多くの感動を得たことから、「世界中の人が 1 日でも健康に長く生きて、周りの誰かに感動したり感謝されるようなことをしたりしてほしい」という思いが心の奥底にあり、絶対にその軸を見失わずに全力を尽くそうと決めていました。

以上、かなり偉そうなことも書いてしまいましたが、これが誰かの納得のいく就活につながれば幸いです。みなさん、自分を信じて、自分とよく対話して、頑張ってください！！